



利賀
交流センター
だより

- ・利賀森のようちえんプロジェクト
- ・2月行事予定
- ・令和7年南砺市二十歳の集い
- ・利賀のキャンドルロード
- ・包括支援センター 藤田先生 講演会
- ・武蔵野プレス 民謡出演
- ・地域おこし協力隊 活動一環
- ・左義長 開催
- ・利賀地域 メディア掲載 実績
- ・武蔵野プレス
- ・利賀青年団活動



2月 行事予定

2/1(土)~2/2(日) 能登島鳥っ子クラブとの交流
能登島地域づくり協議会と地域連携協定を結ぶこととなりました。

2/1(土)~2/2 (日) 武蔵野市民団ツアー

2/1(土) 上村地区そば会

2/2(日) 各地区取り組み発表会

全31地域づくり協議会の取り組みがおわる貴重な機会です。

2/8(土)~2/9(日) 移住体験ツアー(なんと未来支援センター主催)

2/15(土) 上利賀雪の集い

2/16(日) 民謡の屋50周年記念 どんぶろく祭り

2/23 (日) 冬のごっつお祭り

2/28(金) おはぎ配布

3/2(日) 豆谷そば会

3/30 (日) 武蔵野桜まつり

3月下旬 利賀地域づくり協議会役員会 決算見込み

とがプロ活動紹介

長年、お世話になっている慶應大学生サークル、利賀プロ。2011年夏、牛島ゼミの夏合宿として利賀村を訪し活動を行ったことをきっかけに翌年から、利賀村というフィールドで活動を行なう「利賀プロジェクト」が発足しました。

東京とは違う過疎化に悩む中山間地域の現状を学生自身の目で確かめ、興味を持ったことや課題に対して取り組んでいくという方針を立て、現在まで活動を行なっています。昨年はいくさんの行事に関わっていたが、地域に貢献していただきました。ありがとうございました。今年もよろしくお願いいたします。

利賀地域づくり協議会
公式サイト



現在、利賀さきや保育園には10名の園児がいます。0~2歳児が0人であり、今後少子化が盛んとなる可能性があります。そんな危機感に心を動かされ、視察に行きました。先遣地の長野県(茅野市・上田市・伊那市)では幼稚園の近くの森を活用して子供を育てることに力を入れています。

自然と触れ合いながら育つことで、自主性を育むことや生きる力を育てることを目標としている事業。利賀地域でも「森のようちえんプロジェクト」を進めることで、意識の高い教育熱心な保護者に興味を持ってもらい、市内外の移住者を受け入れます。そして人口増加や更なる魅力ある地域づくりに貢献することを目指して本プロジェクトに地域全体で取り組んでいくことで、利賀学舎・平高校なども活用しながら子供を15年~18年育てる環境づくりを目指していきます。



利賀青年団

利賀村青年団の活動を少し紹介します。

青年団組、村内行事の協力の他、冬からは、ボードゲームで顔を合わせる機会を作っています。

2月は都都市の大学生も交えた雪の大運動会を開催します。

今年度に限らずこれからも沢山の人と交流できると嬉しいです。応援よろしくお願いたします。

利賀村青年団 団長 磯村

利賀地域 メディア掲載 実績



令和7年南砺市二十歳の集い

1月12日(日)、市内7会場で「令和7年南砺市二十歳の集い」が執り行われ、4,233人の輝かしい門出を祝いました。「二十歳の集い」は、令和4年4月に成人年齢が20歳から18歳に引き下げられてこれに伴い、これまでの「成人式」を「二十歳の集い」と名称を改め、これまでどおり20歳の方を対象に式典を行っています。利賀地域では、対象者のうち4名が出席し、アーパスホールで式典が行われました。田中市長がビデオメッセージで「南砺市と同じ20歳のみなさん。ご家族や地域の方々への感謝を忘れず、目標に向かって歩み続けてほしい。皆さんの輝かしい門出を心から祝います」と式辞を述べ、武田慎一県議議員、片岸博志市議会議員が祝辞を述べました。謝辞では、代表の橋見謙伸さんが「夢や目標を持ち、後悔のないような人生を歩みたい。この地域に生まれ育ったことを誇りに思いたい」など誓いました。式典の後は、中学校時代の思い出を振り返る写真のスライドショーが放映されたほか、中学時代の恩師の先生方からお祝いの言葉が贈られました。



利賀のキャンドルロード

1月11日～13日にかけて、各地区でキャンドルロードが始まりました。始まった由来として、冬のそば祭りがコロナ禍や財源が無くなりイベントができなくなりましたことから、せめて各地でロウソクで道路を照らすと、キャンドルロードが始まりました。また路を照らすと共に住民の心を明るくして、地域に光を与えるという意味も。冬のそば祭りに関する問い合わせは今も絶えないため、このキャンドルロード実施の意味が冬のそば祭りのファンの皆さんに伝わらばいいなと密かに感じていたりもします。



包括支援センター 篠田先生 講演会

1月16日 井波地域の包括支援センターにて、金沢大学の篠田教授による講演会が開かれました。テーマは「これからの地域づくり協議会のあり方について」でした。南砺市内には31組の地域づくり協議会が存在。それぞれの組織が地域の為に活動し、地域の未来のために出来ることを探し常に力尽き続けています。篠田教授はそんな南砺市の為に少しでも力になれるよう、さまざまな知恵を共有していただきました。行政の考え方の問題についても指摘してくださり、とても信頼できる方です。これからも南砺市のためにご尽力いただけることに感謝です。利賀は課題だらけですが、知恵と行動で、いくらかでも解決できると思います。地域づくり協議会はそのために存在する組織なのです。



武蔵野プレイス民謡出演

武蔵野駅前の武蔵野プレイスにて武蔵野市との交流が50年以上にもわたる南砺市利賀村の展示会を開催。利賀村の歴史や演劇村として認められている劇団スコットの活動、山村留学や子ども教育定仙大学との交流を展示紹介。特産品紹介コーナーも設けて、新商品クロモジブレンドティーの試飲を行いました。その他にも今回は民謡の紹介を行い、平家の落武者が深山辺まで逃れつた地の五箇山の歴史と伝承のむぎや節などの民謡を披露して、多くの方に観覧いただき、利賀の歴史に触れていただきました。また、この機会に三十年以上小学生が利賀村で一週間以上滞在するセカンドスクールを行っている武蔵野市立第二小学校でも民謡を披露し、子どもたちに自然豊かな山奥の利賀の歴史を身近で感じる機会を与えられました。五十年以上の交流の歴史を踏まえて、また新たな観光交流の発展と特産品振興の機会となる事業でした。



地域おこし協力隊 活動一環

地域おこし協力隊の活動として、名古屋市にある富山県名古屋事務所へ。なんと、南砺利賀みらい留学のチラシがありました。ご対応頂いた方がとても素敵なので、利賀ガイドツアーやログインングを活かしたコンテンツなど話が膨らみ、早速、旅行会社を紹介してくださいました。新たな利賀ツアーを企画する上で、旅行会社さんからは、利賀づくしのお弁当や特別な体験、温泉があればいい...とご要望がありました。今は温泉は難しいですが、その他のことにはできるだけ対応できるように準備を進めようと思っています。利賀活性化に繋がる新たな旅行商品が生まれそうです。やはり現場へ足を運ぶことはすごく大事ですね。



左義長 開催

左義長(さぎちょう)とは、小正月を中心に行われる火祭り行事のことです。1月14日の夜または1月15日の朝に開かれることが多い傾向にあります。地域によっては1月7日ごろに行われることもあるようです。子どものための行事となっていることが多く、お正月に飾った松飾りなどを集めて焼いたり、餅や団子を食べたりするのが一般的です。左義長の起源とされるのは、平安時代に行われていた「三柱杖(さぎょう)」と呼ばれる習わしです。三柱杖では、正月遊びで使う「杖(ぎょう)」という杖を3本立て、正月飾りやお札などを一緒に焼かしていました。やがて民間にも広く伝わり、のちに左義長として広まったとされています。

